

## ● 業績ハイライト

### 1 損益の状況

本業の収益力を示すコア業務純益は、貸出金の堅調な推移に伴い貸出金利息が増加した一方、市況低迷の影響により投資信託販売手数料が減少したことなどから、前年同期比 36 億円（13.7%）減少の 229 億円となりました。

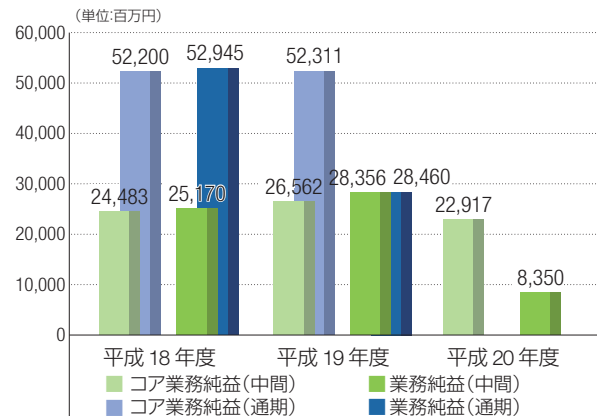
加えて、有価証券の価格下落に伴う減損処理などから、業務純益は前年同期比 200 億円（70.5%）減少の 83 億円となりました。

経常利益は、業務純益の減少に加え、不良債権処理額が増加した一方で、株式売却益が増加したことなどから、前年同期比 154 億円（60.9%）減少の 98 億円となりました。

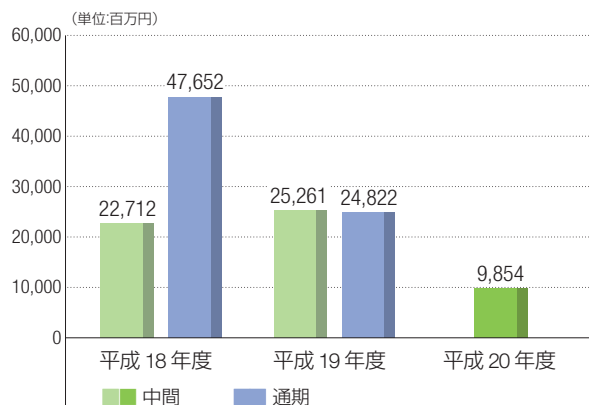
中間純利益は、前年同期比 103 億円（70.6%）減少の 42 億円となりました。

※コア業務純益は、業務純益から国債等債券損益と一般貸倒引当金繰入額を除いたものです。

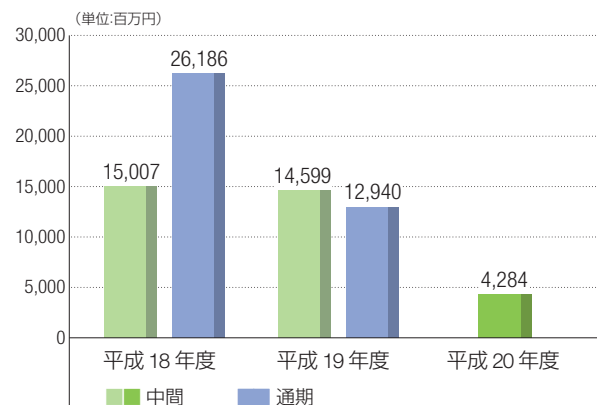
#### コア業務純益・業務純益



#### 経常利益



#### 中間(当期)純利益



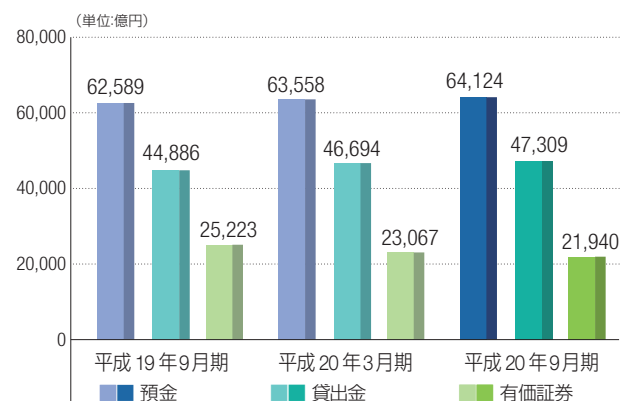
### 2 預金・貸出金・有価証券の状況

預金は、個人預金を中心に順調に増加し、前年同期比 1,534 億円増加の 6 兆 4,124 億円となりました。

貸出金は、法人向け貸出が増加したほか、住宅ローンも引続き堅調に推移したことから、前年同期比 2,422 億円増加の 4 兆 7,309 億円となりました。

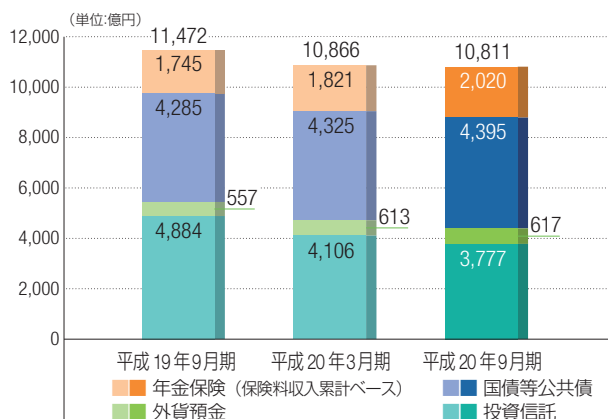
有価証券は、前年同期比 3,283 億円減少の 2 兆 1,940 億円となりました。

#### 預金・貸出金・有価証券



預り資産は、外貨預金、個人向け国債、年金保険が順調に増加しましたが、市況低迷に伴い投資信託が減少したことから、預り資産全体の残高は前年同期比 661 億円減少（5.7%）の 1 兆 811 億円となりました。

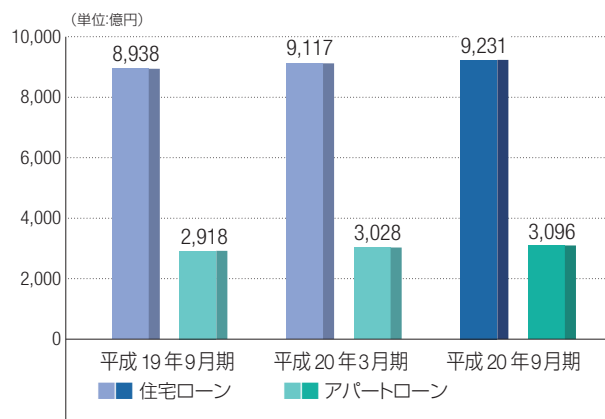
## 預り資産



ました。

住宅ローンは、引続き堅調に推移し、前年同期比 292 億円（3.2%）増加の 9,231 億円となりました。

## 住宅関連ローン



## 3 自己資本比率の状況

自己資本比率は、銀行経営の健全性を示す重要な指標のひとつです。連結子会社を含めた連結ベースでは 13.13%、当行単体でも 12.96%と引き続き高い水準を確保しています。

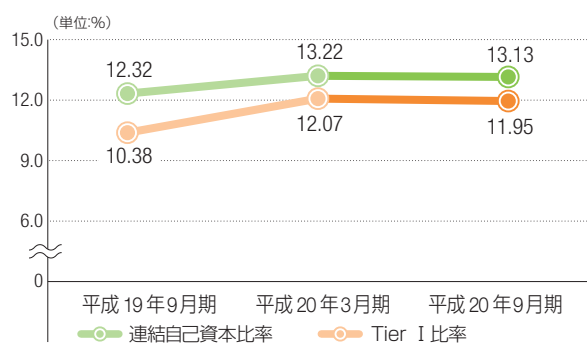
なお、国内基準適用行に求められる水準は 4 %以上となっています。

※自己資本比率

銀行の経営の健全性をあらわす代表的な指標で、リスク・アセット（総資産のうち、万が一の場合に貸し倒れの可能性がある資産）に対して資本金などの自己資本がどれくらいあるかを示します。国際的な活動を行う銀行は 8%以上、国内のみで活動を行う銀行は 4%以上の自己資本比率が求められています。

※ Tier I : 自己資本のなかで基本的な項目と位置づけられるものであり、資本金・法定準備金・利益剰余金などから構成されます。

## 連結自己資本比率(国内基準)の推移



## 4 連結決算の状況

当行の連結子会社は 10 社となります。

損益につきましては、経常収益は有価証券利息配当金の減少により資金運用収益が減少したほか、有価証券売却益の減少によるその他業務収益及びその他経常収益の減少等により、前年同期比 63 億円減少し、1,023 億円となりました。

経常費用は、外貨調達コストの減少により資金調

達費用が減少しましたが、有価証券価格の下落に伴う減損処理の発生及び景況の悪化や企業再生支援に備えた引当金が増加したことから、前年同期比 97 億円増加し、922 億円となりました。以上により、経常利益は 101 億円、中間純利益は 43 億円となりました。